

## 銅像として《世界初》の

### 鬼子母神さま

今月は、皆さまにご報告がありません。既にご存知の方もおられるでしょうが、「にかわ信用金庫本店」から道路を挟んで向かい側に(本堂裏)、真成寺駐車場が新設されました。道路に面した駐車場入り口には、『真成寺総代の館弘之さま御寄進の、『真成寺』という寺表が目印です。その駐車場には前代未聞で国内初!いや、おそらく世界初となる、銅製の鬼子母神様(きしもじんさま)の像が建立されました。製作したのは高岡銅器で有名な、高岡市にある老子製作所(おいごせいさくじよ)。打ち合わせのため何度も高岡に通い、打ち合わせを重ねてきました。そしていよいよ、待ちに待った建立開眼法会は、去る、五月二十日(木)十四時に開催することができました。

本事業は、アイザック会長・石崎由則様、同社社長・石崎大善様、アイザックユ一會長・千田由美子様、他五十九名の皆様による御寄進を元に建立されました。御寄進者様のお名前は、銅像の台座、向かって左側に名盤として刻まれています。

この度の事業は、宗祖日蓮聖人御降誕800年記念事業の一環として、鬼子母神銅像の建立、ならびに駐車場の整備という形で行わせて頂いたというわけです。

銅像の高さは一五〇cm。台座一〇〇cm。合わせて二五〇cmとなる銅製の像です。向かって左に「ザクロの木」を植え、右に半鐘。

また、「法華経・陀羅尼品第二十六」で教示される「マントラ」の刻印をあしらった台座となっております。ちなみに、「法華経・陀羅尼品第二十六」の刻印も前代未聞となります。

本当に素晴らしい鬼子母神銅像です。で、お近くにお寄りの際は、ぜひご参詣ください。

### ●【鬼の字とザクロ】

まず「鬼」の字のお話です。

鬼子母神の《鬼》の文字は、通常使わない文字を使います。なぜでしょうか?

それは、お釈迦様の教えを受け、改心し鬼ではなくなつたからです。そのことを表現するため、《鬼》の字の一目の点、すなわち「ツノ」を取つた字を使っています。

次に、鬼子母神様とざくろについてで

す。

ザクロの実をみると一つの実の中に、また沢山の小さな実があり、その一つ一つがそれぞれに小さな種を持っています。このことからザクロは、古くから子孫繁栄をあらわす縁起のよい果物として「吉祥果」とも言われています。鬼子母神様がこのザクロの枝を手に持つのは、子供を守る神として子孫繁栄の願いが込められています。

真成寺の鬼子母神銅像では、子供(愛娘のピンガラ)にザクロの実を持たせています。

### ●【鬼子母神様の由来】

こういう機会ですので、ここで改めて、「鬼子母神様とはどういう神様なのか?」について、解説させていただきます。

鬼子母神様はお釈迦様のお説きになられた、私達が何時もお唱えしている『法華経(ほけきよ)』というお経のなかに説かれる神様です。お名前をサンスクリット語(梵語)古代インドの言語)で、「ハリーテイ」。これを訳して(鬼子母神(きしもじん))、あるいは(訶梨帝母(かりていも))他にも「歡喜母・愛子母・天母・大夜叉女神」等とも呼ばれています。

鬼子母神様の説話の中で、特に有名な一つの伝説があります。

鬼子母神(きしもじん)は、とても美しい夜叉(やしや)の女神で、五百人と千人とも、また一万人とも言われる程、多くの子宝に恵まれた女神様でした。※ここでは千人としてお話しします。

この千人の我が子を、一人残らず分

け隔てなく愛するほど、母性愛が強かった。我が子に栄養を付けさせて、立派に成長してもらいたい。その一心で夜叉にとつては栄養豊富な人間の子供をさらって来ては食べさせていたと言ふのです。※考えてみれば、私達人間も牛や豚や鳥、あるいは魚介類などを好んで食しますが、夜叉にとつては、私達人間が大層なご馳走だったという事なのでしょう。

と言うことで、人間側から見れば暴虐この上なく、我が子が何時さらわれる事かと恐れ憎んでいました。人々は憂えて、お釈迦様に相談しました。

お釈迦様は一計を案じ、最も可愛がっていた一番下の子供の姿を神通力によつて隠してしまいます。我が子がいなくなつた鬼子母神は、嘆き悲しみ、必死になつて世界中を気も狂わんばかりに探し回りましたが、神通力で隠された我が子が見つかるはずもなく、途方に暮れて、ついにお釈迦様の元に行き、自分の子供がいなくなり、辛い心中を話して、お釈迦様に救いを求めるのです。

お釈迦様は、そんな嘆き悲しむ鬼子母神の苦悩に対して、「お前には万子があるのに、ただ一子を失つて憂悲苦悩している。ところが世間の人々は一子、あるいは三子五子であるのに、しかもお前は自分の我が子を愛するが故に、人間の子供をさらっては食していたのではないか!」と、厳しく戒めました。戒められた鬼子母神は、そこでハッと、はじめて自らの悪事の罪に気付くことになりました(悟られました)。

我が子かわいさのあまり、人間側の立場を考える事がなかった鬼子母神は、贖罪（しよくさい）の念と共に、あるお誓いを立てられました。それは、「命の大切さと、親が子供を想う気持ちに、人間と夜叉神の間に変わらないことに気づけました。今後二度と、人の子をさらいません」。鬼子母神は、お釈迦様の教えを受け、全ての子供たちと『法華経』の教えを信じる全ての人たちを守ることを誓い、改心されたのであります。仏様の弟子となった鬼子母神様は鬼ではなく、『法華経』を信仰する私達や、全ての子供の守り神として、今日の鬼子母神信仰に発展しております。ちなみに日蓮宗ではご祈祷を厳修しますが、この『ご祈祷本尊』が『鬼子母神様』でもあります。

### ●【鬼子母神像お姿の由来】

鬼子母神説話の結末に、神通力で隠された我が子を、お釈迦様から返してもらい、誓願を立てられ『法華経の守護神』となられた瞬間のお姿をイメージしています。俗にいう《靈山（りようぜん）帰りの鬼子母神》とは、このお姿のことです。

つまり、お釈迦様に諭され、改心（仏道に目覚めた）された鬼子母神様は、その仏道に帰依したすぐ後、お釈迦様から末っ子（愛娘のピンガラ）を返してもらい、お釈迦様のおられる靈山から帰るお姿を現したものです。

ご参詣の際は、ぜひお参りくださいますようお願い申し上げます。皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

合掌 副住職 谷川寛敬



ユーチューブ (YouTube) 『かんちゃん住職』を配信中です。左記のQRコードからも入れます。



皆さまから届いたリクエストや、ご質問などにも、お答えしていきます。

ユーチューブチャンネル

『かんちゃん住職』

ご視聴よろしく申し上げます。